学生パワー

秋号恒例の特集となりました『学生パワー』。あるときは研究室で、あるときはキャンパスを飛び出して活躍する徳大生。今年は各分野で活躍する学生主体のグループをを紹介します。[取材]

地域医療の現場から学ぶこと

地域医療研究会

医師や看護師・介護士などの不足、そのことによる職場環境の厳しさが問題となっている昨今、大学の医学部には大きな期待がかけられています。

徳島県が全国の医学生に呼びかけて実施している体験型「夏期地域医療研修」。大学で学ぶ間に、地域医療の現状を知ってもらおうというものです。昨年、徳島大学も他大学生と一緒に、上勝町など三カ所に分かれての研修に参加しました。

担当の谷憲治教授の提案によって、その時参加した人を中心にサークル「地域医療研究会」が誕生しました。部員は約30名。

「山奥の小さな診療所だと一人の医師が何でも診なければならないし、往診にも連れて行ってもらいましたが、移動に時間がかかるのでたくさんの人を診ることもできません。患者さんの話も親身になって聞いてあげたり、夜中でも急患に応じたりと、ほんとうに大変だなと感じました」

と、部長の兵頭沙梨[ひょうどうさり・医学部医学科4年]さん。

同会では結成以来、月に一、二度県内の地域に密着した病院の見学を行い、地域医療の現状などを学んでいます。

今年4月には、大学病院から谷先生をはじめとする医師を派遣している県立海部病院や宍喰診療所(海陽町)、介護施設などでの一泊研修に参加しました。海部病院では、一人の患者さんの受付から診察が終わるまでをお世話をするエスコート実習も体験。

「患者さんの背景(生活)までも含めて診ることが要求されます。医師として期待されているということを強く感じましたが、将来この仕事に全てをかけて飛び込んでいけるか、いろいろな経験を通して考えていきたいです」

また副部長の万野朱美[まんのあけみ・医学部医学科4年]さんも、

「どこで働いても(医療は)大変な仕事だと思いますが、研究会で学んだことを将来に生かしたいし、少しでも多くの人に知らせていきたいです」

と。大学で学ぶことと現場での現実とのギャップを感じながらも、研究会の活動は自分の将来への大きなステップとなっているようです。